

別紙参考資料

- 学校配置の適正配置（統合）の検証結果（アンケート）
- 学校選択制の検証結果



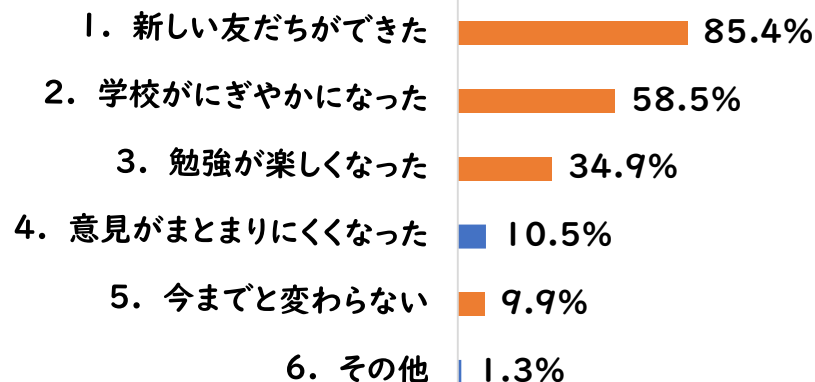


◆アンケート結果（児童）

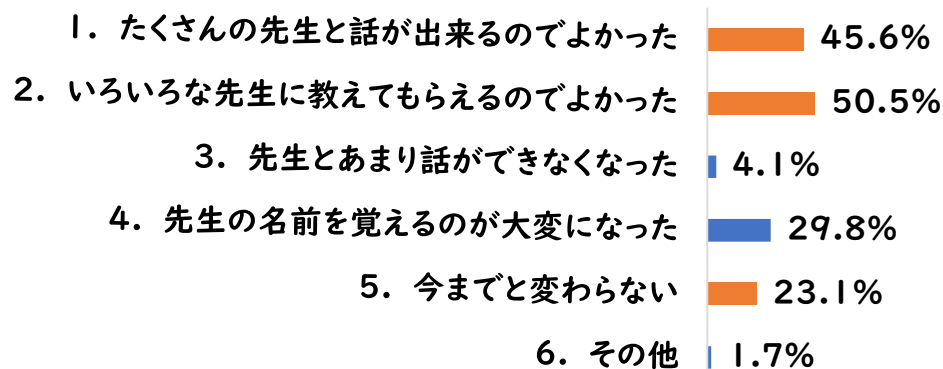
教育委員会による統合後半後のアンケート結果より

① 質問：今の小学校についてどう思いますか。（複数回答可）

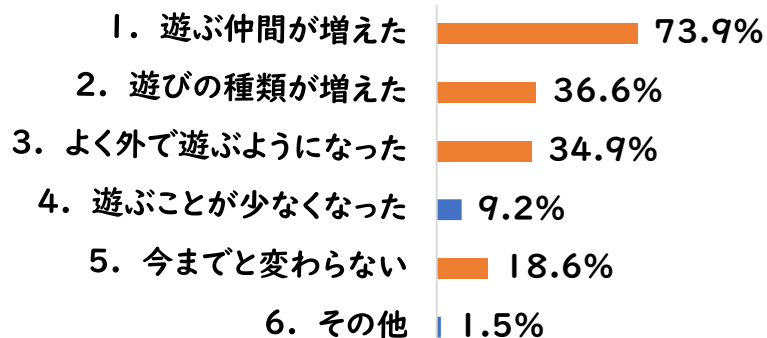
教室での様子について



先生の数が増えたことについて



休み時間の様子について



【分析】

◎ 多くの児童が

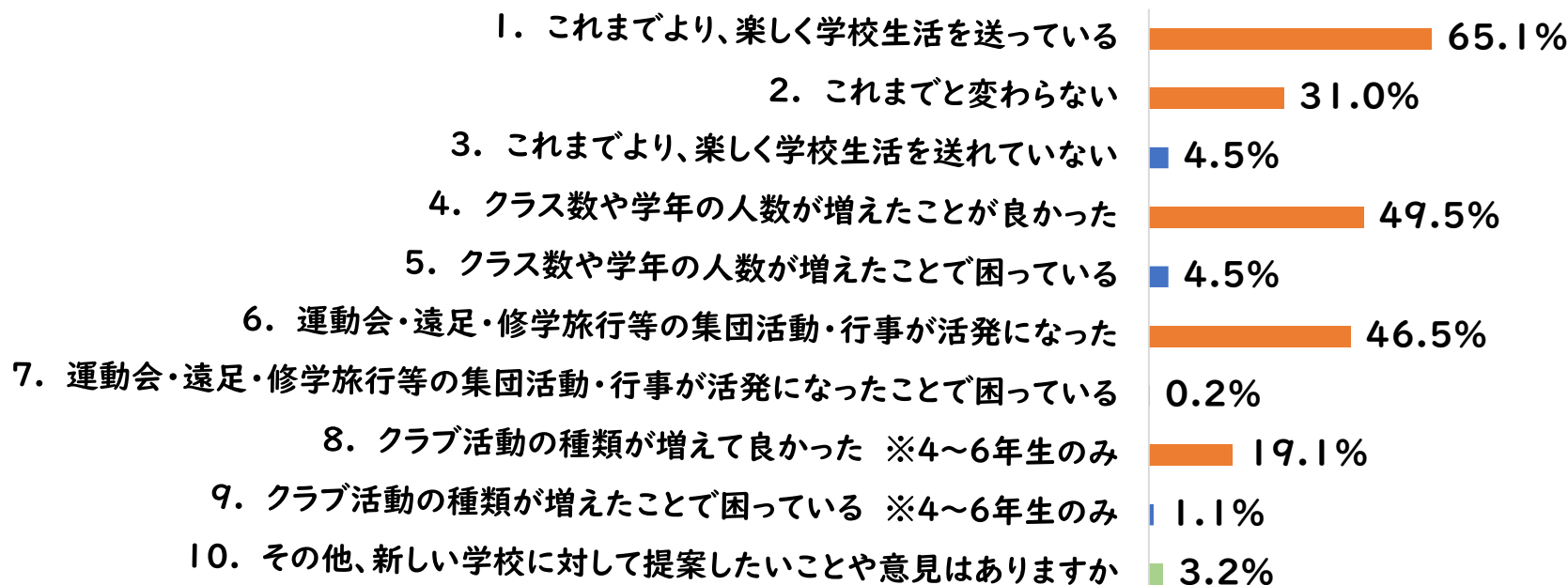
- ・「新しい友だちができた」、
- ・「遊ぶ仲間が増えた」、
- ・「いろいろな先生に教えてもらえるのでよかった」と回答している。



◆アンケート結果（児童）

教育委員会による統合後半年後のアンケート結果より

② 質問： 統合してよかったことは何ですか。（複数回答可）



【分析】

- ◎ 多くの児童が「これまでより楽しく学校生活を送っている」、「クラス数や学年の人数が増えたことが良かった」、「運動会など集団行動・行事が活発になった」と回答している。
- ◎ 統合前との比較や集団規模に対して、肯定的に受け止めていることが見受けられる。



1 学校選択制にかかる検証報告書（令和5年3月大阪市教育局委員会まとめ）

◆学校選択制検証のためのアンケート概要

- 実施年度： 令和2・3年度
- 対象者 ： 保護者、地域団体関係者（小・中学校の学校協議会委員）、小学校長・中学校長

◆「学校選択制は良い制度だと思うかどうか」

○ 保護者

- ・「良い制度だと思う」…………約7割
- ・「どちらでもない」…………約2割
- ・「良い制度だと思わない」…約1割

○ 地域団体

- ・「良い制度だと思う」…………約5割
- ・「どちらでもない」…………約2割
- ・「良い制度だと思わない」…約3割

<検証のまとめ（抜粋）>

- 学校選択制については、多くの保護者から良い制度であると評価されており、今後とも制度実施が必要であると考える。
- 現状のニーズを踏まえ、選択制により救われている人など一定数いること、児童生徒や保護者に学校を選択する権利があることを考慮する必要。



2 有識者より、考え方の整理（抜粋）

【大阪教育大学 教授より、児童生徒数の増減に関する見解】

- 学校長との意見交換（令和4年12月実施）では、学校選択制による児童生徒数の増減による教育的課題について様々な意見がありました。
- すなわち、大規模校で児童生徒数が増加すると普通教室の不足や運動場の制限などの課題が発生し得ます。
- また小規模校でさらに児童生徒数が減少することは、修学旅行、運動会などの学校行事の問題や授業が成立しないなどの課題が生じ得ます。
- いずれにせよ学校選択制を利用する児童生徒や保護者のニーズから考えると、適正規模校で教育を行うことの議論が大切ではないかと思われます。
- また、ワーキングの検証では多くの児童生徒の保護者が適正規模校を希望されている傾向がデータから見えてきていました。
- 学校選択制においては、児童生徒や保護者に学校を選択する権利があり、選択する学校を制限することはできませんが、小規模校となっている原因や、それによる児童生徒への弊害などがあるのであればその課題を解消していくことが必要です。
- 学校選択制の議論と、学校統廃合の議論は異なるものであり、子どもたちの最善の利益を図ることを最優先に議論していくことが重要であると考えます。

【参考】学校選択制の検証結果 3/3



3 有識者と学校長との意見交換＜令和4年12月実施＞ 抜粋

【学校長より、小規模校に関する意見】

● 良い点 ● 悪い点

- すべての児童の顔と名前が一致し、教師の目が行き届く。当該校を選択した保護者からも学習面や生活面でしっかり見てもらえるという期待がある。
- 学力的に課題がある児童生徒については一律にICTを活用するのではなく、個別の状況により板書をしてノートを取らせるなどきめ細かな教育を行っている。
- 小規模化がさらに進んで複式学級も検討せざるを得ない状況になった。
- 男女の人数バランスがとれないことがあり学校行事等への支援だけでなく、思春期の児童生徒が体の悩みを抱えた時等クラスメートに相談できないことがあった。
- 人数が少ないことにより体育の授業や音楽の発表などが成立しないことがあり支障が出ている。
- 部活動が単独で成り立たず、団体競技でチーム編成ができないため試合ができない。
- 児童生徒間のトラブルがあり分離以外の解決策が見つからない場合に、単学級ではどうすることもできないことがある。
- 修学旅行などの校外行事では借上げバスだと負担割合が高いだけでなく、団体割引も難しいことがあり相当苦慮している。
- 卒業アルバムは人数割りで価格が決まるため少人数になると一人当たりの価格が高額になる。行事の写真撮影についても教職員が行い業者に渡して加工してもらうなど現場負担している。
- 校内清掃も児童生徒だけでは手が回らず、管理作業員や教職員で行う清掃範囲が増えて現場負担が生じている。
- 教員の減少により、中学校での教科数(9教科11科目)に足りず、非常勤講師や各種加配教員に加え、他校と兼務することで、必須教科の授業が可能となっている。
- 教員の減少により、複数の部活動を担当しないといけないため相当な負担となっている。